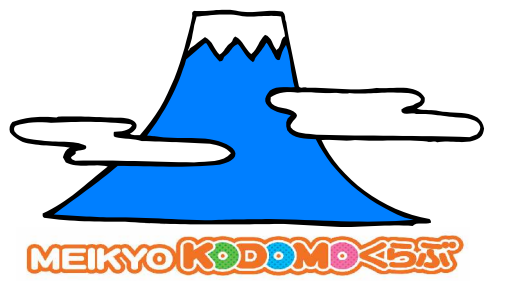


ほすぶ てつぶ じやんぶ

特訓進学塾

名教



2011年度版 第6号

塾長コラム

あんぱんち

～第十六回～

秋の運動会、体育大会、作品展や学芸会、修学旅行などの話題が、子どもたちからは多く聞かれます。2学期真つ盛りだなあと感じます。

さて、今春から小学校の教科書が変わりました。これに続き、来春、中学校の教科書が新しくなります。塾の個人懇談会の際にも、その話題があがることもありました。また、新教科書が手に入る時期ではありませんが、教科書はすでにできあがっています。教材制作会社などから取り寄せている情報をまとめておきます。今の小学生も中学生になって使うことになる教科書です。ぜひ、ご参考になさってください。

全体的な傾向は、次の4点です。 ページ数の増加、問題集・参考書の編集、 目標・目的の明確化、 活用する力の育成です。順に見ていきましょう。

ページ数の増加 授業時間数が増えます。例えば、中3では、英語と数学が週3から週4に、理科と社会は週2から週4に増えます。ともなう、教科書のページ数が増加します。特に、名古屋市が採択する理科の大日本図書の教科書ではそれが顕著で、ゆとり教育元年の2002年の教科書と比べると、2000%以上のページ数増、つまり、2倍以上になります。

問題集・参考書の編集

まるで問題集のような編集が

されています。社会をのぞく主要4教科でこの傾向が見られます。英語では、長文読解が増え、設問もついています。学力向上を目指したものと云えるでしょう。

目標・目的の明確化 授業の目的や目標が明確になっています。「何を学ぶか、きちんと身についたか」といったことを生徒が意識しやすくなっています。

活用する力の育成 小学校と共通ですが、言語活動自分の言葉で伝える活動、説明しなさいという問題(など)、覚えた知識を活用することに取り組みページが設けられています。

また、教科別に見ると、次のような特徴があります。

英語 文法が重視されています。演習問題も掲載されています。単語は、1200語程度に増加します。

数学 演習問題が多く掲載されています。学習指導要領外の発展的内容も取り扱っています。

国語 芥川龍之介、夏目漱石、太宰治など近代文学が増加しています。客観的読み取り(読解力)が重視されています。

理科 第一分野と第二分野の分冊だったものが、学年別になります。発展内容も掲載されています。

社会 (地理)日本、世界とも、一部の地域のみを学習していましたが、全部を学習することになります。1981～92年当時の学習内容に戻ります。(歴史)世界史、文化、戦後の内容が増え、一部が中3での学習になります。

以上、新しい中学校の教科書の概要です。総じて言えば、質と量ともに充実させ、しっかりとした学力をつけさせる方向に変わることが、はっきりとします。子ども

今号の内容

- あんぱんち
- 今月の論語
- ぼくたち・わたしたちのハローワーク
- プラボ-ミュージック
- 気ままに理科
- TSUZUKI の TSUBUYAKI
- 今月のクイズ
- 読者のコーナー

たちには、「今まで以上に、しっかりと勉強しよう!」と
いったところでしょうか。
(塾長 西川 陽祐)

今月の論語

子曰わく、**益者三友、損者三友、**
直きを友とし、諒を友とし、
多聞を友とするは、益なり。便辟
を友とし、善柔を友とし、便佞
を友とするは、損なり。

どんな友達を選べばいいか考えてみましょう。

「益者三友」とは、素晴らしい友の3つの条件という意味です。その条件とは、「直き」「諒」「多聞」です。

「直き」とは、正直、素直なことです。自分が耳を傾けることができる素直な友を持つということです。「諒」は、「誠」と同じ意味です。誠実な友だちということですね。何事にも誠実を尽くす人間に接していると、自分も諒に近づいていくことができます。「多聞」とは、「博学」という意味です。物事をよく知っている人、よく勉強をして知識豊かな人を友にしようということです。

これと反対に、こういう人は友達にしてはいけないと

いう条件も3つあります。それが「損者三友」です。一つ目は、「便辟」です。「便辟」というのは、調子がいいこと。自分の嫌なことや面倒くさいことは人に押し付けて、いつもいい顔をする人のことです。二つ目は、「善柔」です。物腰が柔らかくて、他人の意見には決して反対しないこと。だから一見、人が良さそうに見えるけど、信念がない人をいいます。三つ目は「便佞」です。これは人様に媚びへつらう人。そして心のねじ曲がっている人のことを言います。これらの三つの条件を持つ人を友達にすると、自分にはあまり利益になりません。

人は置かれた環境で非常に変化します。友達選びは非常に大切なことです。でも、人間と言つのは、正直な人より悪い人のほうが付き合やすいものです。同じレベルの仲間とわいわい騒ぐほうが楽です。だから、放つておいたら人間はすぐに墮落してしまつたのです。一方、多聞な人と付き合うには、自分の教養を深めなければ話が合いません。そういう人と対等に議論をするためには、自分も常に努力をして高めていなければならぬといけません。

だから、こういう友達を持つと自然に自分も高まっていくことができるのです。人間はいい人間と接すると、いい方向に変わっていくのです。

参考図書 瀬戸謙介『子供が喜ぶ「論語」』(教知出版社)

「あたりまえだけど、とても大切なこと」

ルール17 あらゆる努力をして、整理整頓をしよう。

ルール18 わたしが宿題を出したとき、不満そうな声をあげたり、文句をいったりしてはいけない。そういうことをすると宿題の量が倍になる。

「あたりまえだけど、とても大切なこと」
～子どものためのルールブック～
(ロン・クラーク著 亀井よし子訳 草思社)より